

## 第10回新居浜市レジ袋削減推進協議会議事録

- 1 開催日時 平成24年 6月 6日(水) 14:00～15:30
- 2 開催場所 新居浜市役所本庁舎5階大会議室
- 3 出席者  
(新居浜市) 会長 曾我(環境部長)  
事務局 藤田(環境部総括次長)、本田(ごみ減量課長)  
中西(ごみ減量課副課長)、近藤(ごみ減量課)  
(スーパー) コープえひめ(白川、平井)、(株)フジ(大野、加地)  
マックスバリュ西日本(株)(合田、伊勢)  
(市民団体等) にいはま環境市民会議(太田、伊藤)、にいはま消費者友の会(岡田)、  
グループさつき生活学校(原)
- 4 欠席者  
(スーパー) (株)木村チェーン、イオンリテール(株)、(株)ママイ、(株)マルナカ  
(株)マルヨシセンター  
(ドラッグストア) レディ薬局(株)、(株)大屋マック  
(ホームセンター) ダイキ(株)  
(市民団体等) 新居浜市女性連合協議会、新居浜商工会議所
- 5 報道関係  
4社(愛媛新聞、ハートネットワーク、愛媛朝日放送、毎日新聞)

## 6 内 容

(事務局)

定刻が参りましたので、ただ今から第10回新居浜市レジ袋削減推進協議会を開催いたします。本日、出席いただける方が御覧のとおり少なくなっておりますが、後お一人環境市民会議の方がご出席いただけることとなっております。

また、本協議会は「公開」を原則に開催いたしております。では、会長に議事をお願いしたいと思います。

(会長)

皆さんこんにちは、環境部長の曾我です。よろしくお願いいたします。

本日は、お忙しい中、また遠方より多数のご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

ございます。レジ袋無料配布中止の活動も、皆様のご協力のおかげで4年目を迎えることとなりました。しかしながら、当初からご要望いただいております「ごみ袋の指定袋化」、「レジ袋無料配布中止について事業者の足並みを揃える」ことにつきましては状況を進展させることができず、また、レジ袋の無料配布中止に取り組んでいる他の自治体につきましては、県内はもとより四国内の状況におきましても進展が見られない状況でございます。

当初、市内の食品スーパー24店舗中19店舗でスタートいたしましたレジ袋の無料配布中止も、現在25店舗中15店舗となっております、このような状況の中で協議会設立、それから協定締結の意義につきまして今一度皆様とお話をさせていただき、今後の取り組みにつきまして協議することが必要ではないかと言うことで、その認識において本日お集まりをいただいたところでございます。率直なご意見をいただきますようお願いいたします。それでは、会次第に基づきまして会を進めさせていただきます。

まず、次第の一番目でございますが「レジ袋無料配布中止の現況及び現在までの協議内容」につきまして事務局からご説明いたします。

(事務局)

<資料P1～3について説明。>

(会長)

今の説明の中で、ご質問や現状に対してのご意見はございませんでしょうか。

(コープえひめ)

質問なのですが、ママイさんが平成24年3月に協定を解消されているのですが、木村さんも止められているのではないかという認識なのですが、解消までには至っていないのですか。

(事務局)

木村さんにつきましては、前回の協議会におきまして「木村さんの取り組み方法を無料配布中止として認める。」ということで諮らせていただいて認めていただいておりますので。

(会長)

これにつきましては、事業者さん自体の取り組みとして、位置付けとしては協定の範囲内ということで認めていただいている状況です。会に参加いただいた事業者様からは、「そのことに対して事業者の立場からどうこう言うことはできない。」とのご意見も出ておりました。

(フジ)

ママイさんの協定解消の理由はどのような内容ですか。

(事務局)

8割の店舗が参加すれば上手く行くだろうということで頑張ってきたけれども、事業者による体力差とか売上への影響が当初スタートした時よりも厳しいものがあって、ということによって継続が難しい。というのが大体の理由です。

(フジ)

店舗数は何店舗になりますか。

(事務局)

5店舗になります。

(会長)

レジ袋の無料配布中止にご参加いただけていない事業者さんへは、市の方から訪問させていただいて現況とか参加に向けてのお話もさせていただいております。先日もマルヨシセンターさんにお伺いしたのですが、現段階では参加は難しいとのことでした。マルナカさんにつきましてはイオンさんと一緒になっておりますが、レジ袋削減に関する取り組みがどのように変化するかは今のところ分からないとのございました。方向といたしましては、少し期待はしている状況でございます。

次に、今後のレジ袋削減活動について、私の方からご説明させていただきます。先ほど現状につきまして事務局から説明させていただきましたが、当初は足並みが揃わないながらも8割の店舗にご参加いただいておりますが、現在は参加率が6割となっております。また、家庭ごみの有料化によるごみ袋の指定袋化も現在は見送りとなっております。レジ袋削減に関する県、四国内の取り組みも動きがない状況でございます。そのような中、本市がレジ袋の削減に取り組むのは厳しい状況であると認識しております。他県では、山陽マルナカさん、ハローズさんが無料配布中止の取り組みを進めるなど、好転しているところもございますが、愛媛県においては県の取りまとめによるスケールメリットも期待できる状況ではございません。

厳しい状況だけをお話してもいけないのですが、こういった中、新居浜市単独での取り組みを模索しなければならないということは、重々承知しております。レジ袋無料配布中止に取り組んでいただいている事業者さんの本業への負担が無くなるのが最も重要だと思っております。本協議会へご参加いただいてレジ袋の削減に取り組んでいただく意義と申しますか、取り組みがいのようなものがなければ継続も難しいということも感じております。

これは市としての案でもありますし、事業者さんからも一度見直してみてもどうかとご提案いただいたのが、このレジ袋削減協議会全体で取り組めるような、無料配布中止以外の取り組みで底辺を広げる意味合いも込めて、例えばレジ袋無料配布中止以外の事業者さんについても、それぞれレジ袋削減の目標を立てていただいて、そのことについて報告いただくとか、そういったことも考えてはどうか、というご提案でございます。市といたしましては、あくまでもレジ袋の無料配布中止がレジ袋削減の目標地点でございますので、そこに向かって取り組んで行くという一つの方法としてとらえることができないか、ということでございます。このことにつきまして直ぐに結論は出ないと思いますが、一つの案として、それぞれの事業者さんのご意見をお伺いしながら協議させていただきたいと考えております。今回は無料配布中止を実施いただいている事業者さんのみの参加となってしまう、大変申し訳ないのですが事業者さんの方から何かございませんでしょうか。

(コープえひめ)

先ほど現状の報告がございましたが、やはりレジ袋がごみ袋として使えるという点、それと全事業者の足並みが揃っていないというこの2点が大きなネックになっているのではないかと考えております。先ほどママイさんが止められた理由のところも、説明いただいたように「同業事業者の足並みが揃っていない中での取り組みは予想以上に厳しい。」ということで経営的にかなり厳しくなってきたという部分があるかと思えます。特に、中小の小売業といいますか、事業規模の小さいところが経営的に少し厳しくなってきたというのは我々も理解できますし、そういったことが背景にあると思えます。

さらにママイさんが抜けることによって、そういったような事業者のところでの厳しさというのは更に増してくるのではないかと思います。先ほど言われましたように、協議会へはレジ袋無料配布中止を行っていただけていない事業者さん、ドラッグストア、ホームセンターさんも入っておりますが協議会へ参加いただけておりません。協定により我々はレジ袋無料配布中止を実施しておりますが、そのハードルが高い、高いから参加されていないのではないかと考えております。本来、協議会のメンバーですのもっと参加いただいて、レジ袋削減の取り組みを進めていただければいいのですが現実的にはそうならない。我々といたしましても、レジ袋の削減というのは地球温暖化の防止等もあって大変重要な課題だと思いますし、それを推進していく必要があると考えておりますけれども、こういった高いハードルのもとで歯抜けの状態で行き進めていても大きな前進にはつながらないのではないかと感じておまして、むしろハードルを下げてもっと広範に色んな形でレジ袋削減という取り組みを推進していくような形に持って行った方がいいのではないかと感じております。今協定を結んでおりますが協定があるから参加しづらくなってきたということもありますので、協定自体もどうするかということも含めて、もっと広範な事業者さんが参加していただけるようなそういう方向にしていくべきではないかと思っております。

(会長)

経済情勢も大変厳しい中で協議会自体がもっと活性化して皆さんが取り組める、そういった活動にもって行くためにはどうすればいいかということで、協定そのものも含めて見直しを、というご意見だったと思います。

(フジ)

ほぼコープさんと同じ意見とさせていただいて結構です。弊社としましては市の条例等で強制力を持ってお力添えいただければ、各事業者さんもスムーズに取り組めるのではないかと考えております。

(事務局)

条例については、協議会におきまして一度ご提案をさせていただいております。全国ではほんの数例しかない条例ではございますけれども、それぞれの事業者さんに取り組み目標を出してもらってその報告をいただく。その取り組みが不十分であれば、市が事業者さんと協議させていただく。というのが主な内容だったと思います。そういうイメージの条例を一度ご説明させていただいたことはございます。店舗面積であるとか、一年間のレジ袋の使用枚数であるとか、報告いただく事業者さんの決定方法には少し違いはあるようです。

(会長)

協定を結んでいるレジ袋無料配布中止の内容そのものを条例化することは難しい状況です。そこまでの強制力を持たせることは難しい状況となっております。

(フジ)

ごみ袋の指定袋化も条例化は難しいのでしょうか。

(事務局)

新居浜市独自の経過、一度提案したけれども見送りをしたという特殊事由と、もう一つは指定袋にするということは有料で販売するというに実質なりますので、市民への負担増ということで直ぐに指定袋化というのは難しいと考えております。例えば、西条市のように一定枚数を配布するという方法であれば市民の方に負担は掛りませんが、作成費、配布費用がかなりかかります。通常はごみの減量の動機にさせていただくということで、少し高めの料金を設定してごみを減量するというやり方がほとんどですので、単純な指定袋化というのはそういう意味でも難しいと思います。

(会長)

ごみ袋の有料化自体、市民の負担を増やすということになるので今の時期に有料化を進めて行くというのは難しい状況ではございます。

(コープえひめ)

レジ袋削減の条例化に関しましても、ごみ袋の指定袋化に関しましても、直ぐにという訳には中々行かないと思いますので、協議会のところで広範な業者さんに来ていただいて、ここでルール化すれば当面のところはそれで済む話ですので、将来的には条例化を目指していくというのはいいと思うのですが、ここでルールを決めてレジ袋削減に関する自主的な色んな取り組みをする、そういったものを報告していただくというようなことでいいのではないかと思います。

(マックスバリュ)

今までのお話を聞いて思うことが、負担とか不利ということをごだれが受け持つかということで、有料のごみ袋にすれば、市民の方がお金を払ってごみ袋を買わなければならなくなるし、今の状況であれば、レジ袋無料配布中止を実施している事業者が売上減とか客数減とかの不利負担を背負うこととなります。ですから、この協議会に参加する企業をもっと増やさなければならぬし、レジ袋無料配布中止を実施している企業から意見は出にくいです。これ以上何をしたらいいのですか、という話になりますので。その辺が、フェアではないと思います。

後、レジ袋無料配布中止に参加されていない企業さん、協議会に出てこられていない企業さんの都合の良い時間をある程度決めて、昼がだめなら夜やるとか、そのような形で参加者を増やしていく必要があると思います。また、レジ袋の無料配布中止に参加しているスーパーの店舗数が8割ではなく、店舗面積で何割なのかという数字で押さえて行く必要があると思います。最後に、目標とゴールを明確にしなければ進んで行かないのではないかと感じております。

(環境市民会議)

協議会ができて協定を締結して4年が経ちます。その間、新たな参加が1事業者もないということにおいて、何だったのだろうという思いがあります。先ほどコープさんが言われたように、同じ土俵で会を持つことなく協定を締結したところだけが集まってその時々のお思いを聞かせていただいておりますが、やはり参加していない所の本音の音がなかなか聞けません。先日もマルヨシセンターへキャンペーンに行ったのですが、皆さん割りとマイバッグを持ってお買い物に来られているのですよね、ですからそういう意味ではマイバッグに対する意識は変わりつつあるのかな、そのもう一つ向こうは何なのだろうかと悩むところなのですが。

もう一点は、レジ袋の無料配布中止がスタートしてから新居浜市のごみの減量にどのようにつながってきたのでしょうか。ごみは減ったのでしょうか。

(事務局)

<新居浜市のごみの現状について説明>

①総量として平成16年をピークに減少している。

(ピーク時7万トン → 現在4万8千トン)

②平成23年度は前年比+2%。(ほぼ横ばい)

③レジ袋削減活動をきっかけに、ごみに目を向けるようになり、意識的な部分で大きな意義があったと考えている。

(グループさつき)

企業のみなさんが集まりやすい方向を考えて、一人でも多くの人に集まっていただいて本音の話をしていただくというのが大事なのではないかと思います。今まで皆さん頑張ってくくださったのに、落ち込んでしまうというのはとても悲しいことです。何か突破口がないか、やれることはどんどんやって行く努力が必要なのではないでしょうか。生活が厳しいことがたくさんある中で、ごみ袋も買わなければならないから大変だ。と思うかもしれませんが、ごみ袋は今でも買っていますし買わないではおられないので。ですから少しずつでも努力していく姿勢が大切だと思います。

(会長)

市といたしまして会の持ち方ということも反省いたしまして、多くの事業者さんに参加いただいてご意見をいただけるようにしてまいりたいと思います。また、みんなで努力といますか、市民の皆さんにもご負担をお掛けすることがあるかもしれませんが、そのような方向で議論をしていきたいと思っています。

(グループさつき)

この会に市民団体をもう少し入れる工夫が必要だと思います。

(消費者友の会)

この会に参加するまで、買い物にマイバッグを持参することは当然のように思っておりましたが色々あるのですね。私たちには当たり前のようになっておりますが。

(マックスバリュ)

山口県は進んでいるという話だったのですが、なぜ進んでいるのでしょうか。新居浜ではできないという理由は何なのでしょうか。

(事務局)

<事務局説明>

①県が取りまとめを行い県下全ての市町村で実施するスケールメリット。

②県内の市町村すべてが指定ごみ袋によるごみ出し。

(レジ袋をごみ袋として使用できない。)

(環境市民会議)

協議会を立ち上げて4年間になりますが、協議会そのものの土台がきちんとしていないからこれまでにどのような実績があったのかと言われても、そこまでの実績が上がっていないと思います。事業者さんは、当然企業として利益というものを考えて活動している訳ですから、これ以上のことをお願いするのも酷なのではないかと感じております。また本日、会に出席されていない事業者さんについては、なぜ出席されていないのかその理由は把握されておられるのですか。

(事務局)

今回は、都合が悪いとのご連絡を受けているだけですが、以前には、実際に無料配布中止に参加していないので会への参加は勘弁していただきたい。とのご連絡をいただいたこともございます。

(環境市民会議)

やはり地元の企業さんが一番きつい思いをして、それ以外の企業さんはレジ袋の削減活動に重きを置いていない現状があるのではないかと思います。やはり土台の部分には企業さんをお願いするのではなくて、行政の方がきちんとした土台作りを進めて行かなければならないと思います。いずれにしても、ごみの減量化を進めて行く上で通らなければならぬ道というのは必ず出てくると思います、そこを後回しにしては土台というものがきちんとして作れないのではないのでしょうか。それと市内のスーパーさんで集まりといいますか、会合のようなものはあるのでしょうか。

(事業者)

ありません。

(環境市民会議)

そのようなものがあれば、そちらで働き掛けもしていただきたらと思うのですが、協議会そのものに力がないのではいくら進めて行っても前進はしないと思います。企業は慈善事業をやっている訳ではないので、普通に考えれば、隣でレジ袋を出していないのであればこっちはレジ袋を出せばお客さんが来る。と考えると思います。そこをあえて取り組ま



れている皆さんはすごいと思います。今はどこの企業もそうだと思うのですが、環境のことを考えない企業はないと思います。そういった面でもっと働き掛けをしなければならぬと思います。実際に取り組まれている企業さんが来て話をしても、前には進まないと思います。その打開策は、いかにして来られていない事業者さんに協議会へ参加いただくかだと思います。それは行政だけではなくて、難しい部分はあると思いますが事業者さんの方でも何か働き掛けをしていただくといったことが必要になってくるのではないかと思います。

#### (環境市民会議)

私は協議会発足当時の熱い思いが甦るのですが、地球温暖化防止が盛んに言われたときに熱意を持って賛同していただきました。それからすると、もう少し取り組んでいただける事業者さんを増やしていきたいと思います。そういう意味での会の在り方を工夫しなければ衰退する方向へ進んで行くような気がします。

#### (フジ)

私も3年目になりますが、発足した当時のことはわかりませんが、愛媛県でレジ袋削減活動が進んでいない中、それでも新居浜市でやるんだ。という気持ちで始まったはずなのに今は前進というよりはむしろ後退しております。このままの会であれば出席してもしなくても同じ、と感じております。そうなると崩壊してしまいますので、行政にはこのようなことをしてもらい、団体はどうする、事業者はこうする、というように役割を明確にして進んで行かなければ空中分解してしまいます。

#### (コープえひめ)

繰り返しになるかもしれませんが、レジ袋削減活動を行っていない事業者さんが来づらいというのは本音だと思います。やはり協定があってレジ袋無料配布中止を進めます、という高いハードルがあって、参加していない事業者さんはやはり来づらいと思います。いくら強くお願いしてもそういう高いハードルが目の前にあって、それを飛び越えられない。ですからハードルをもっと低くして、レジ袋削減ということ言えば色々な取り組みが可能だと思いますので、やれる取り組みを各事業者さんの自主性に任せればいいのではないのでしょうか。声掛けひとつでもレジ袋削減の取り組みといえます。ですから、ハードルを下げるという部分をきちんと決めてからでなければ、事業者さんも来たくても来られないということになるのではないのでしょうか。

#### (会長)

まずは、レジ袋無料配布中止に参加いただけていない事業者さんにも協議会へ参加いただいて、その中でそれぞれの事業者さんで独自に取り組めるレジ袋削減活動などのご意見

を出していただけるような方向で進める。ということにつきましては皆さんご意見ございませんでしょうか。

(賛同を得る)

(コープえひめ)

それと先ほどご意見がございましたが、市民の方にももっと参加していただかないと、私たちの活動を市民の方に知っていただく、認めていただくということも大切なことですので市民の皆さんの参加を増やしていただきたいと思います。

(会長)

その点につきましても、今後とも努力してまいります。次の会につきましてはより多くの事業者さんに出ていただけるように設定させていただきます。

(コープえひめ)

日程調整をしても今まで通りでは出席いただけないと思いますので、ハードルを下げる用意があるということでご案内いただけたらと思うのですが。

(会長)

この場で確認させていただいたとおり、たくさんの事業者さんが参加できるような方法を議論する。という方向でご案内させていただきたいと思います。また、毎回の議事録も参加いただけていない事業者さんへもお持ちしております。開催日程につきましても幅広く調整させていただきたいと思います。

(マックスバリュ)

是非、また盛り上げて行っていただきたいと思います。四国内では四万十市と新居浜市しかやっていないのですから。それが成功すれば周りが付いてくると思いますので自信を持って進めて行くべきだと思います。

(会長)

コープさんからもあったのですが、協定の内容、これも見直しの中に入れたら、というご意見もありましたので、まず、底辺を広げるといった部分を取り組んで行って、その次に今の協定をどうするか、といった方向でよろしいでしょうか。

(賛同を得る)

(会長)

それでは次回の協議会において、今後の方向性について決定できたらと思いますのでよろしく願いいたします。

(フジ)

ちょっとすみません。資料の取り組み課題のところに、足並みを揃える、県内他地域でのレジ袋無料配布中止の取り組み拡大、ごみ袋の指定袋化と3つの課題がありますが、この3つについてどのようにまとめられるのか確認したいのですが。

(事務局)

足並みを揃えるということにつきましては、食品スーパーがレジ袋無料配布中止に取り組む。ということで取り組んできましたが、ママさんが協定を解消され、マルナカさん、マルヨシさんの参加が現状では難しいので、今後、レジ袋削減に関する色んな取り組みを協議会で広げて行く。ということで取り組んで行くということです。ここでは県内他地域でのレジ袋無料配布中止の取り組みとありますが、それ以外の方法も含めて拡大を図って行くということです。

(グループさつき)

ママさんのやり方(レジ袋辞退者へのキャッシュバック)でも約50%の数が出ているのですよね。80%から見ると下がってはいるけれど。

(事務局)

ごみ袋の指定袋化につきましては、市としましては引き続き検討はいたしますが、今すぐスケジュールを示して進めて行く状態、段階ではございません。

(環境市民会議)

このごみ袋の指定袋化が一番ネックだと思います。この4年間この話は全く進んでいないということですか。

(会長)

家庭ごみの有料化ということで個別に説明会も開いて進めてきましたが、連合自治会の方から有料化は見送りし、ごみの減量施策を実施するべきではないかとの要望をいただきました。最終的には市長が判断して見送るということになったのですが、その後、大型ごみの有料化について今年度目標で進めてまいりましたが、経済状況が厳しくなっている中で、今の時点では難しいという状況でございます。ただ、いずれ取り組まなくてはならない課題であるとの認識は持っておりますし、新居浜市第5次長期総合計画の中にも明記さ

れているところでございます。

(グループさつき)

このメンバーに市民団体も増やして、それが強力になれば良い面で後押しになるかもしれません。

(会長)

市民の方には買い物へマイバッグを持参していただくということで広げて行けば、レジ袋無料配布中止の取り組みにもプラスになると考えております。すぐに効果が出る特効薬のようなものはないのですが、行政としましても取り組みを進めてまいりたいと考えております。

次回の会につきましては、8月に開催させていただきたいと考えておりますが、他の事業者さんとも調整させていただきます。

(事務局)

ご意見をいただいたように、土日祝日、夜間も含めまして8月下旬で調整させていただいて、たくさんの方にご参加いただける日時に開催させていただきます。

続きまして、追加で配布させていただいた資料についてご説明させていただきます。愛媛県資源循環優良モデル認定制度の募集についてですが、募集対象の2番「優良循環型事業所」につきまして、レジ袋無料配布中止の取り組みでの申請を考えております。7月17日が締め切りとなっておりますのでご意向を確認させていただきたいと考えております。

次に市ホームページへのリンクについてですが、現在、レジ袋無料配布中止に取り組んでいただいている事業者さんのロゴを掲載させていただいているのですが、そこにそれぞれの事業者さんのホームページへのリンクを貼りたいと考えております。併せてご意向を確認させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(会長)

それでは、これもちまして協議会を閉会したいと思います。長時間にわたりありがとうございました。